



環境活動報告書

Environmental Report

2021

Contents

1	ごあいさつ	2
2	事業概要	3
	-1 当社の事業概要	
	-2 シンシア品川R・Cセンター 事業概要	
	-3 シンシア品川リサイクルセンター 事業概要	
	-4 シンシア横浜R・Cセンター 事業概要	
3	環境マネジメントシステムについて	7
4	環境管理組織	8
5	環境パフォーマンス	9
	-1 活動目標の達成度(2020年度)	
	-2 活動目標の概要(2021年度)	
6	インプット・アウトプット(2020年度)	13
7	環境数値(2020年度)	14
8	主要な環境パフォーマンスの指標の推移	15
9	資格の取得	17
10	環境マネジメントシステム監査結果	18
11	環境教育	19
12	ステークホルダーとのコミュニケーション	20

平素は当社事業にご理解・ご支援を賜り誠にありがとうございます。

また、この度の新型コロナウイルスの影響を受けられた方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、世界各国における感染症の流行が一刻も早く終息することを祈願しております。

「環境活動報告書2021」をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、「自然との共生」を企業理念とし、①R・C(資源循環)事業 ②リサイクル事業 ③環境整備／ビルメンテナンス事業の3つの事業に於いて環境への意識が高いお客様のニーズに的確なソリューションをもって対応させていただいています。

2020年は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、日本でも緊急事態宣言による外出規制、東京オリンピック・パラリンピックの延期、新たな生活様式の実践など社会生活に大きな影響を与えました。当社を取り巻く事業環境においては、特に産業廃棄物処理業は「国民生活・国民経済の安定確保に不可欠な業務」と位置付けられ、緊急事態宣言下でも事業継続を要請されています。掛かる状況下にあって、従業員の安全確保を第一にして操業の維持を図っております。2021年1月6日に小泉環境大臣が感染性廃棄物の保管・処理状況等の把握を目的にシンシア横浜R・Cセンターを視察され、感染拡大下においても安全・確実な処理を行う体制が確保できていることを確認していただきました。

当社は、1999年に環境マネジメントシステムの認証を取得し、今年で22年を迎えますが、当初から取り組んできた資源循環や地球温暖化対策に加え、コロナ禍という新たな課題に対しても真摯に向き合っております。

環境活動報告書2021では、主に2020年度における当社の環境への取り組みをご報告いたします。是非ご一読いただき、率直なご意見をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

2021年8月



環境管理総括責任者 高林 武慈

シンシアは「自然との共生」を企業理念とし、「R・C(資源循環)事業」「リサイクル事業」「環境整備／ビルメンテナンス事業」の3つを柱に伸展し続けています。

R・C(資源循環)事業

R・C(資源循環)事業は、民間最大級の都市型廃棄物処理施設である「シンシア品川R・Cセンター(東京都品川区)」と「シンシア横浜R・Cセンター(横浜市金沢区)」を拠点に、多種多様な廃棄物処理を行っています。両施設は環境負荷を抑えながら廃棄物を処理し、同時にリサイクルも可能な設備が整っています。



リサイクル事業

シンシア品川R・Cセンターに隣接する「シンシア品川リサイクルセンター」を拠点に全国へネットワークを展開して、情報通信機器を中心に増え続ける不用品や廃棄物をリサイクルしています。不用品から金属類や再生利用可能なものを最大限回収し、金属素材メーカーに売却(マテリアルリサイクル)しています。売却できないものは、シンシア品川R・Cセンターにて適正処理と再資源化を行っています。

環境整備／ビルメンテナンス事業

環境整備／ビルメンテナンス事業は、企業の職場環境を整備するビルメンテナンス業務と、これに伴う不用品や廃棄物の回収とリサイクル、そのマネジメント、また廃棄物管理業務全体のアドバイスやサポート業務(環境管理業務のサポート)を行っています。



シンシア品川R・Cセンターは、東京都品川区という首都圏の中心に位置しています。私達はここで、事業系一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物を焼却・溶融処理しています。溶融炉は焼却後の灰(焼却灰)を高温で溶かし、溶融スラグとすることで、埋立処分されることの多かった焼却灰を建設資材として再資源化するマテリアルリサイクルが可能になりました。加えて焼却廃熱を利用して発電するサーマルリサイクルも行い、受け入れた廃棄物を可能な限り再資源化しています。



受入可能な廃棄物の種類

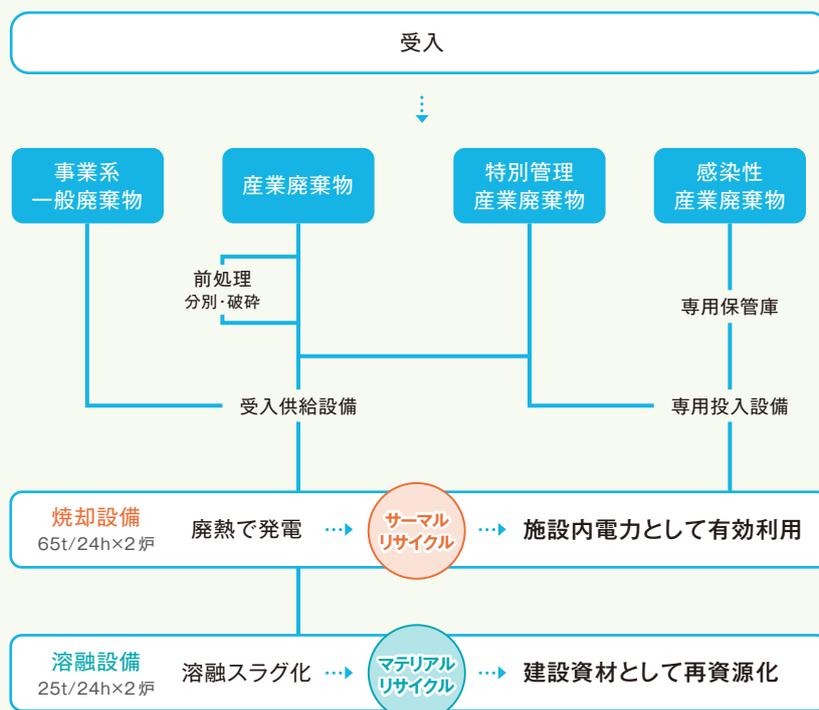
事業系一般廃棄物	普通ごみ
産業廃棄物	燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、動植物性残さ、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、政令13号指定廃棄物、動物系固形不要物
特別管理産業廃棄物	廃油、廃酸、廃アルカリ、特定有害産業廃棄物、感染性産業廃棄物

処理能力

焼却*	130t/24h (65t/24h×2炉)
溶融	50t/24h (25t/24h×2炉)

* 130t/24hは一般廃棄物、特別管理産業廃棄物の処理能力であり、産業廃棄物の処理能力については、142t/24h(71t/24h×2炉)となっています。

シンシア品川R・Cセンター 処理工程



シンシア品川リサイクルセンターの原点は、江戸の昔、江戸中からゴミを集め、工夫を凝らし、一切捨てることなく再生利用したくず屋にあります。私達はここで、搬入された不用品や廃棄物を、丁寧な解体作業とプロの判断で選別します。その後、破碎機による「破碎」及び大型プレス機による「圧縮」を行い、金属素材メーカー等に売却し、マテリアルリサイクルを行っています。



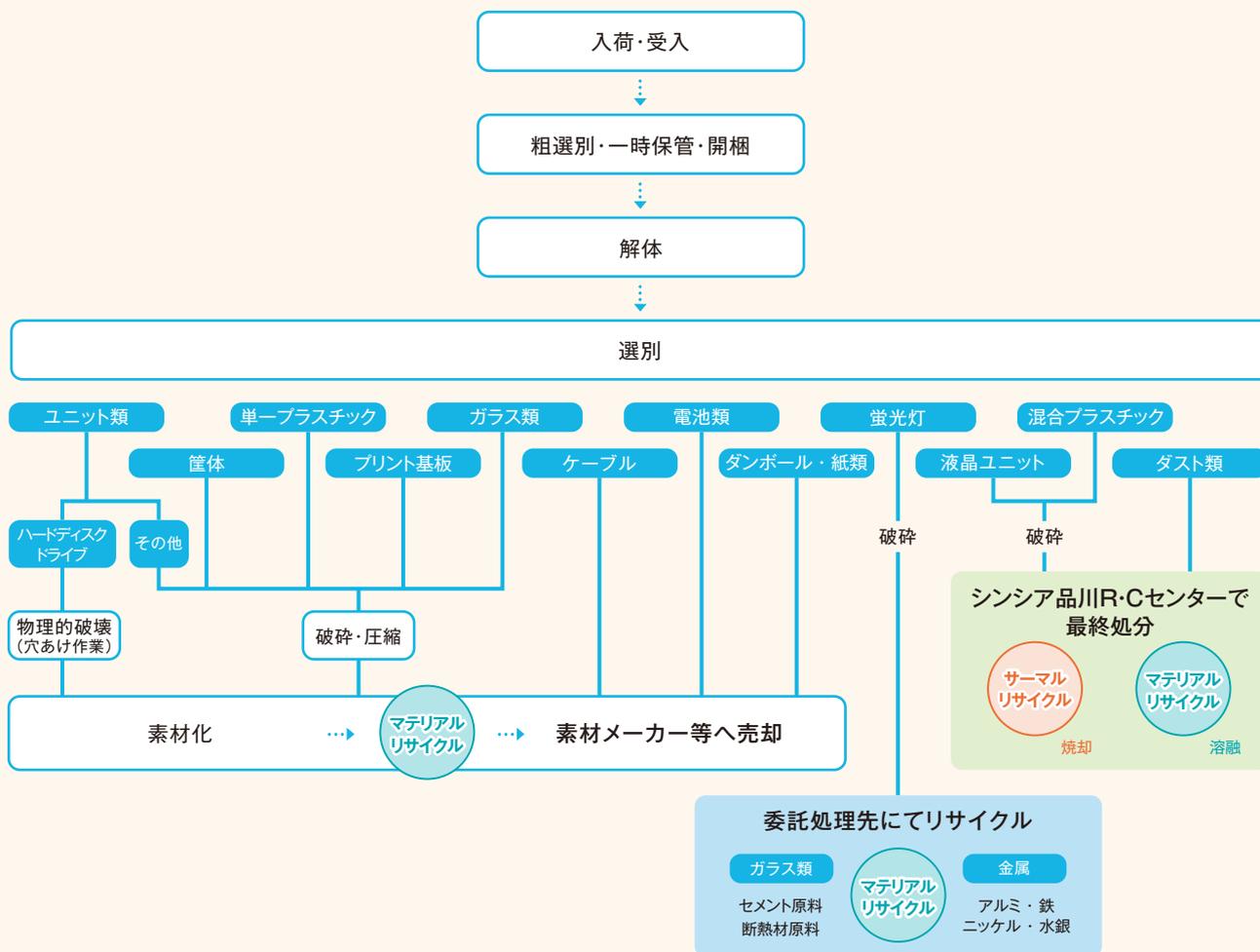
受入可能な廃棄物の種類

産業廃棄物 廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（廃蛍光灯を含む）

処理能力

破碎	(4.8t/8h)
破碎(廃蛍光灯)	(16,000本/8h)
圧縮	(42.2t/8h)

シンシア品川リサイクルセンター 処理工程



シンシア横浜R・Cセンターは、2009年に横浜市金沢区に誕生しました。厳しい環境規制をクリアし、さまざまな産業廃棄物を適正に処理した上で、廃熱発電によるサーマルリサイクルを行っています。発電により生じた電力は、施設内で活用、余剰電力は売電しています。



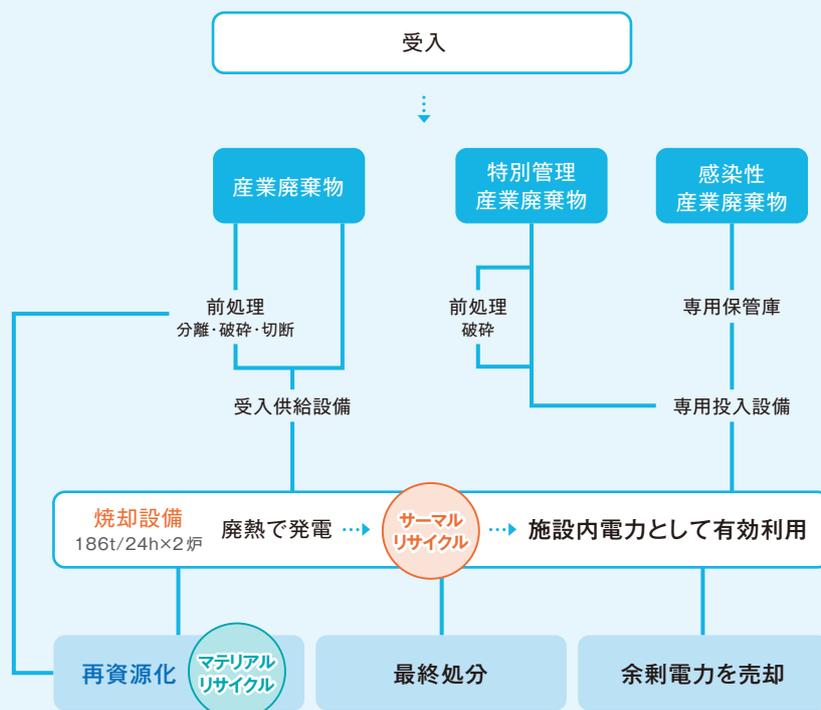
受入可能な廃棄物の種類

- 産業廃棄物** 燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート及び陶磁器くず、ばいじん、動物系固形不要物
- 特別管理産業廃棄物** 廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く）、感染性産業廃棄物

処理能力

- 焼却** 372t/24h (186t/24h×2炉)
- 破碎** 80t/9h、3.6t/9h (1.8t/9h×2基)
- 切断** 11t/9h
- 分離** 22.16t/9h

シンシア横浜R・Cセンター 処理工程



現在ほど環境に対する意識があまり高くなかった1999年当時、当社は焼却・溶融処理施設として、日本で初めてISO14001(環境マネジメントシステム:EMS)の認証を取得し、環境事業者として、高い意識を持って環境に対して真摯に向き合い、積極的に環境保全に取り組んでまいりました。

環境方針

1. 廃棄物の適正処理・再資源化及び環境の美化を推進します。
2. 関連法令、地域社会との協定を順守し、環境汚染の未然防止に努めます。
3. 事業を取り巻く環境の変化に応じて活動目標を見直し、環境管理システムを継続的に改善することにより、環境負荷を低減します。
4. 省資源・省エネルギーを推進し、温室効果ガスの排出削減に努めます。
5. 品川事業所、横浜事業所及び本社で働く一人ひとりが、環境に対する意識の向上に努めます。
6. この環境方針は、一般にも公開します。

2017年4月1日
株式会社 シンシア
環境管理総括責任者 高林武慈

環境マネジメントシステム認証取得の経緯(1999年~2020年)

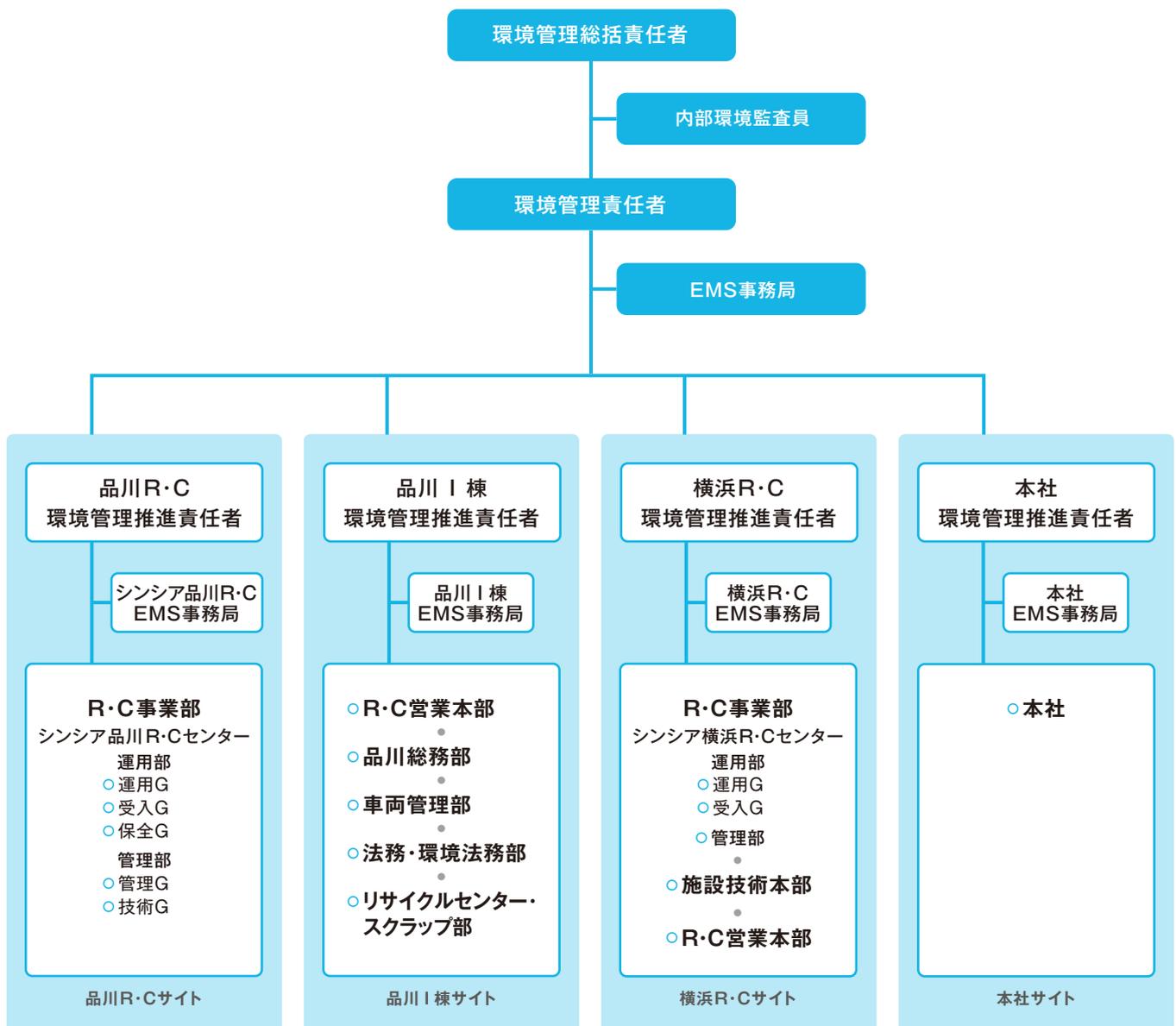
- | | | |
|-------|-----|---|
| 1999年 | 6月 | R・Cセンター ISO14001 認証取得を目指しキックオフ |
| | 9月 | 認証取得に備え事前審査実行 |
| | 11月 | ISO14001登録審査実施
R・Cセンター ISO14001 認証取得 |
| 2000年 | 12月 | R・C営業部への認証拡大を目指しキックオフ |
| 2001年 | 12月 | 登録範囲にR・C営業部を追加
R・C事業本部へ登録範囲拡大 |
| 2007年 | 9月 | 登録範囲にリサイクルセンター、スタッフ部門を追加
シンシア品川へ登録範囲拡大 |
| 2010年 | 10月 | 平成22年度「日本規格協会マネジメントシステム永年登録賞」
(ISO14001)を(一財)日本規格協会殿より受賞 |
| 2011年 | 11月 | 第4回更新審査登録範囲にシンシア横浜事業所を追加 |
| 2012年 | 4月 | 本社の認証取得を目指しキックオフ |
| | 10月 | 登録範囲に本社を追加 |
| 2017年 | 9月 | 第6回更新審査(移行審査含む) |
| | 11月 | ISO14001:2015へ移行を完了 |
| 2020年 | 9月 | 第7回更新審査 |

※ 組織名称は全て当時の名称です。



当社は、事業に関連する各種法令の順守やステークホルダーの要求を満たすため、ISO14001の規格に沿った環境管理組織を構築しています。定期的に各種法令の順守状況やステークホルダーの要求を満たしているかを確認し、構築した環境マネジメントシステムがISO14001の規格に適合しているか、内部監査を実施しています。

環境管理組織図



○活動単位

2020年度の各サイトの活動目標はすべて達成することができました。前年度の活動内容から大きな変更は行わず、パフォーマンスの継続と更なる改善の推進を重視しました。

品川R・Cサイト

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	運用G 受入G 技術G	不具合物の搬入再発防止のための展開検査の実施	燃焼試験：156件以上	156件	達成
2	運用G 受入G 保全G 技術G	設備の安定的な運用のための提案活動	月毎の推進項目の実施	計画通り毎月実施	達成

品川I棟サイト

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	リサイクルセンター スクラップ部	副産物の付加価値を高める提案活動	提案件数：6件以上	6件	達成
2	車両管理部	運搬業務効率の改善提案と営業戦略に有益な情報提供	改善提案又は提供した情報の採用件数：計5件以上	10件	達成
3	R・C営業本部	リサイクルレベル向上案件の獲得	リサイクルレベルが向上した新規受注件数：前年度実績比90%以上	106%	達成

横浜R・Cサイト

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	運用G	排ガス処理で使用する粉体薬剤の削減	粉体薬品の使用量： 3,462.2kg/日・炉 以下	3,222.5kg/日・炉	達成
2	管理部 運用G 受入G R・C営業部	飛灰削減のための搬入廃棄物の性状確認及び是正対応	・性状検査：320件以上 ・展開検査：28件以上	・性状検査：344件 ・展開検査：40件	達成
3	施設技術本部	電力量の把握と照明設備の省エネ活動	・毎月の使用電力量の把握 ・毎月の省エネ推進活動の推進	・使用電力量の把握： 毎月実施 ・蛍光灯(351灯)をLED化し、省エネ化を推進	達成

本社サイト

No.	活動部門	活動目標	目標値	実績値	判定
1	本社	消耗品の使用量削減	消耗品使用量低減策 適用拠点数の拡大：5拠点	5拠点へ適用	達成
2		業務見直し・効率化による残業時間の抑制	本社勤務者年間残業時間： 前年度実績以下 (1人あたり平均又は総残業時間)	1人あたり66h減	達成

2021年度の各サイトの活動目標は、以下の通りです。目標達成へ向け活動して参ります。

品川R・Cサイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	運用G 受入G 技術G	不具合物の搬入の抑制	展開検査又は燃焼試験：年156件以上
2	運用G 受入G 保全G	設備の安定的な運用のための提案活動	毎月の推進項目を実施

品川I棟サイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	リサイクルセンター スクラップ部	副産物の付加価値を高める提案活動	提案件数：年6件以上
2	車両管理部	<ul style="list-style-type: none"> ・運搬業務効率の改善提案 ・営業戦略に有益な情報提供 ・同一方向・搬入先案件の混載運搬 	改善提案及び提供した情報の採用件数：年7件以上 又は混載運搬件数：年5件以上
3	R・C営業本部	リサイクルレベル向上案件の獲得	新規獲得件数：前年度実績件数の90%以上

横浜R・Cサイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	運用G	排ガス処理で使用する粉体薬剤の削減	粉体薬品の使用量：3,476.7kg/日・炉 以下
2	管理部	飛灰削減のための搬入廃棄物の性状確認及び是正対応	<ul style="list-style-type: none"> ・性状検査実施件数：年320件以上 ・展開検査実施件数：年28件以上
3	施設技術本部	電力量の把握と照明設備の省エネ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・使用電力量の把握 ・省エネ化推進項目の実施

本社サイト

No.	担当部門	活動目標	管理項目・目標値
1	本社	消耗品の使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・5拠点で消耗品の使用量削減策を推進 ・対象拠点拡大の検討、トライアル実施
2		業務見直し・効率化による残業時間の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・本社勤務者年間残業時間：2019年度比70%未満（1人あたり平均又は総残業時間） ・毎月の推進項目を実施

当社は、事業活動に伴う環境負荷を把握し、廃棄物の適正な処理はもちろんのこと、省エネルギー、廃棄物のリサイクル等、環境負荷の軽減につながる取り組みを継続して実施しております。

以下は2020年度の実績値です。

INPUT



シンシア品川R-Cセンター



品川リサイクルセンター

シンシア品川事業所

一般廃棄物受入量：	3,144t
産業廃棄物受入量：	25,403t
特管廃棄物受入量：	11,907t
電力消費量：	7,841MWh
灯油消費量：	485KL



シンシア横浜R-Cセンター

シンシア横浜事業所

産業廃棄物受入量：	71,514t
特管廃棄物受入量：	6,330t
電力消費量：	15,036MWh
都市ガス消費量：	140,686㎡

事業活動



OUTPUT

シンシア品川事業所

廃棄物の 搬出量

ばいじん：	3,147t
廃蛍光ランプ破砕物：	9t
安定型混合廃棄物：	79t

CO₂の 排出量

36,795t-CO₂

有価物の 売却量

溶融スラグ：	1,866t
古紙：	91t
金属：	2,157t
プラスチック：	68t

シンシア横浜事業所

廃棄物の 搬出量

ばいじん：	6,278t
燃えがら：	4,566t

CO₂の 排出量

159,532t-CO₂

廃熱発電に よる売電量

26,724MWh

廃棄物を焼却する際に発生する硫黄酸化物や窒素酸化物、塩化水素等の有害ガスは、排ガス処理設備にてクリーンなガスに処理した後に大気に放出しています。排ガス処理が適切に行われているか定期的に測定（分析業者に委託）しています。測定結果については基準値を下回っていることを確認しています。

シンシア品川R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果					
				4月	6月	8月	10月	12月	2月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.3未満	0.5	0.5未満	0.5未満	0.4未満	0.9
	窒素酸化物	ppm	70	26	51	40	35	30	25
	塩化水素	ppm	20	1	1	1未満	2	1	2
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	0.030	—	—	—	—	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.4未満	0.5	0.4	0.5	0.4未満	0.4
	窒素酸化物	ppm	70	41	33	52	38	26	42
	塩化水素	ppm	20	2	1	1	1	2	1
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	0.014	—	—	—	—	—
溶融1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	0.4未満	0.5	0.5未満	0.5未満	0.4未満	0.4
	窒素酸化物	ppm	75	24	21	23	29	31	20
	塩化水素	ppm	20	1未満	2	2	1	1未満	1未満
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1	0.12	—	—	—	—	—
溶融2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.05	*2					
	硫黄酸化物	ppm	20						
	窒素酸化物	ppm	75						
	塩化水素	ppm	20						
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	1						

*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。 *2 停止中のため測定なし。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし

シンシア横浜R・Cセンター 排ガス測定数値

設備	測定項目	単位	基準	測定結果						
				4月	5月	6月	8月	10月	12月	2月
焼却1号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	0.001未満	—	—	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	1.4	—	—	2.7	0.5未満	0.7	1.4
	窒素酸化物	ppm	45	29	—	—	19	18	22	24
	塩化水素	ppm	20	10	—	—	10	7	9	10
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	0.00080	—	—	—	0.0033	—	—
焼却2号炉	ばいじん*1	g/m ³	0.02	—	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満
	硫黄酸化物	ppm	20	—	0.8	0.4	1.6	5.0	0.5未満	1.1
	窒素酸化物	ppm	45	—	26	25	27	14	19	17
	塩化水素	ppm	20	—	14	7	8	14	7	12
	ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	—	0.00082	—	—	0.0035	—	—

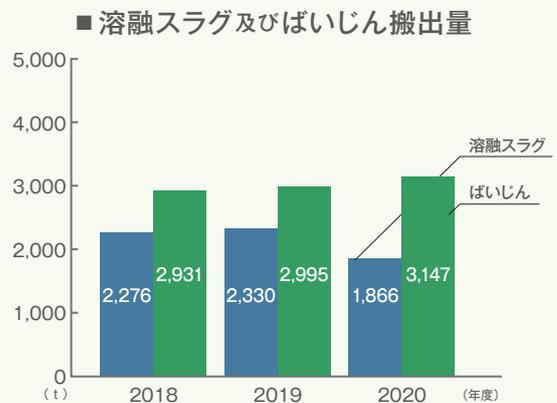
*1 標準状態(0℃、101.32kPa)を示す。

測定月：サンプリング月，未満：測定限界未満の数値，—：測定なし

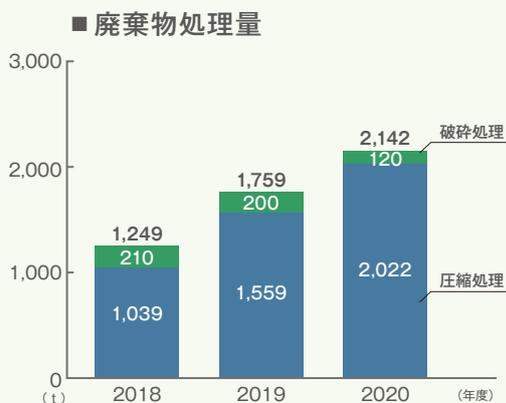
受け入れた廃棄物は適正に処理し、できる限り再資源化することは言うまでもありません。また、さらなる環境負荷の低減を目指して、主要な環境パフォーマンスの指標を把握しながら、資源やエネルギーの無駄を無くす取り組みを推進しています。

シンシア品川事業所 (2018~2020年度)

シンシア品川R・Cセンター



シンシア品川リサイクルセンター



シンシア品川事業所全体

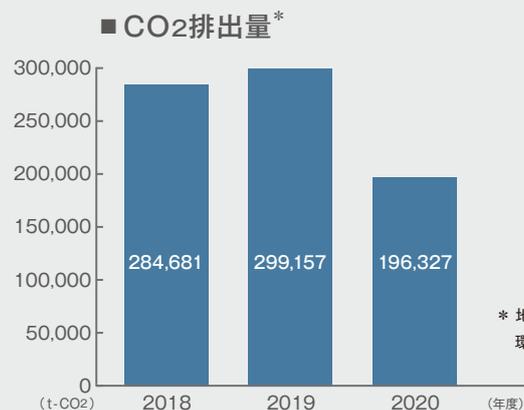


シンシア横浜事業所 (2018~2020年度)

シンシア横浜R・Cセンター



全社 (2018~2020年度)



* 地球温暖化対策の推進に関する法律の規定により、環境省へ報告を行った算定排出量です。

環境負荷低減のための確かな技術の確証として、資格の取得や外部講習会への参加を積極的に行っています。講習会や、資格取得時に得た知識と技術は、日々の業務に活かされ、廃棄物の適正処理と環境負荷低減に役立っています。取得した資格とその取得者数については、下記の通りです。

資格名称	取得者数	資格名称	取得者数
産業廃棄物焼却施設技術管理士	31名	危険物取扱者(甲種)	5名
ごみ処理施設技術管理士	16名	危険物取扱者(乙種)	97名
産業廃棄物最終処分場技術管理士	4名	衛生管理者	18名
破砕・リサイクル施設技術管理士	11名	酸素欠乏危険作業主任者	65名
ダイオキシン類特別技術管理士	5名	クレーン運転業務特別教育修了者	85名
環境物質管理特別技術管理士	3名	有機溶剤作業主任者	47名
特別管理産業廃棄物管理責任者	31名	電気主任技術者	3名
産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)収集運搬業講習修了者	54名	電気工事士	21名
産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処分業講習修了者	48名	ボイラー・タービン主任技術者	20名
PCB収集運搬作業従事者講習修了者	11名	エネルギー管理士	4名
特定化学物質等作業主任者	50名	消防設備士	9名
特級ボイラー技士	2名	高圧ガス冷凍機械製造保安責任者	5名
一級、二級ボイラー技士	77名	環境カウンセラー(事業者部門)	2名
ボイラー整備士	10名	建築物環境衛生管理技術者	7名
公害防止管理者(大気関係)	9名	ビルクリーニング技能士	12名
公害防止管理者(水質関係)	4名	解体工事施工技士	5名
公害防止管理者(騒音)	3名	1級土木施工管理士	2名
公害防止管理者(振動)	1名	1級造園施工管理士	1名
公害防止管理者(ダイオキシン類)	5名	冷媒回収技術者	4名
東京都公害防止管理者	5名	技術士(衛生工学部門)	1名

内部環境監査（2020年度）

環境マネジメントシステムを確実にかつ効率的に推進するため、部門間の相互監査を実施し、ISO14001の要求事項への適合性の確認及び、取り組みに対する評価や指摘・改善提案などを行っています。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、対面での現場確認やインタビューを一部中止しましたが、証拠書類やヒヤリング方法を工夫することにより、環境パフォーマンスへつながる改善事項を挙げることができました。監査員教育においても教育用動画の活用や外部機関によるオンライン研修を採用し、効率的に教育を実施しました。

事業所	実施月	指摘事項	改善事項
横浜事業所	1月～2月	0件	5件
品川事業所	11月～12月	0件	8件
本社	11月	0件	0件

外部認証機関による審査（2020年度）

外部認証機関による定期維持審査（年1回）と更新審査（3年に1回）を受審しています。2020年度はシンシア品川事業所、シンシア横浜事業所及び本社について更新審査を受審しました。環境マネジメントシステムの改善に関する提案が2件挙げられ、全件対応を完了しました。



品川事業所の審査



横浜事業所の審査

当社では従業員の経験に応じて、資格の取得や外部講習会への参加、社内教育等により環境教育を実施しています。シンシア品川事業所、シンシア横浜事業所では緊急事態を想定し、定期的に緊急事態対応訓練を行っています。なお、従業員の環境意識向上を目的として「環境月間」を設定し、他部門の業務内容を理解するためのイベントや勉強会を毎年実施してきましたが、2020年度は新型コロナウイルスの感染予防の観点から一部中止しました。

2020年度に実施した訓練の一部をご紹介します。

液状廃棄物の保管タンク・供給配管からの漏洩対応訓練

漏洩物の拡散を防止し回収するための機材（土嚢、吸着マット等、水中ポンプ等）の保管場所と使用要領を確認し、漏洩箇所に応じた供給ポンプの停止操作、バルブ操作を確認しました。

また、設備を適切に維持し、故障による漏洩を未然に防ぐことが重要であるため、日常点検でのチェックポイントを確認しました。



ポンプ・バルブの操作確認



漏洩物回収機材の確認

地域住民の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに対し、常時施設を公開しております。

また、管轄行政に対し、各種法令に基づく報告や必要に応じて随時連絡や相談等を行い、法令順守や行政とのコミュニケーションを図っています。

施設見学・現地確認の対応について

当社の施設に対する施設見学や現地確認を随時お受けしております。施設の模型を使って処理・リサイクルのプロセスやサービス内容を説明した後、各設備の運転や監視を行っている制御室、廃棄物の焼却炉への投入や廃棄物が焼却されている焼却炉内、パソコンや情報通信機器の解体の様子等をご覧いただきました。2020年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から縮小しましたが、排出事業者様等183名の方々にお越しいただきました。



地域の皆様との交流

シンシア横浜事業所では、従業員の通勤路である並木北駅及び並木中央駅から横浜事業所までの歩道のごみ拾い活動を年2回(6月、11月)行っています。近隣の環境美化はもとより、近隣の企業にお勤めの皆様が気持ちよく通勤できるよう、これからも活動を続けてまいります。

シンシア品川事業所では、例年近隣の公園でごみ拾い活動を行っていますが、昨年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から自粛いたしました。



管轄行政による確認

管轄行政より定期的に立入検査を受け、適正な施設の維持管理ができるようご指導いただいています。



◀ シンシア品川R・Cセンター
東京都環境局殿の立入検査の様子

シンシア横浜R・Cセンター
横浜市資源循環局殿の立入検査の様子 ▶



小泉環境大臣がシンシア横浜R・Cセンターを視察

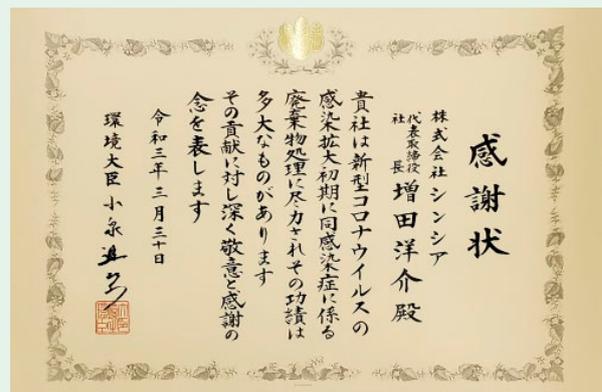
2021年1月6日、小泉環境大臣が新型コロナウイルスに汚染された感染性廃棄物の保管・処理状況等を把握するためにシンシア横浜R・Cセンターを訪問されました。

新型コロナウイルスの感染拡大下においても安全確実に処理を行う体制が確保されていることを確認していただき、感染性廃棄物の荷下ろし場のほか、焼却炉や蒸気タービン・発電機等もご覧いただき、当社の取り組みに対するお褒めの言葉を頂戴しました。

2021年3月30日、環境大臣より、新型コロナウイルス感染拡大初期に発生した感染性廃棄物の処理や、感染拡大期における円滑で確実な廃棄物処理の継続について当社の功績を認められ、感謝状をいただきました。



中央：小泉環境大臣 / 左：高林常務取締役 兼 横浜事業所長



環境大臣から当社への感謝状



〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目26番3号 大森ベルポートD館6F
TEL 03-3764-5300(代表) FAX 03-3764-5347

お問い合わせは info@sincerehq.com へ